

第46回児童生徒 読書感想文コンクール

児童生徒読書感想文コンクールに、多くの優秀な作品が寄せられました。
先月に引き続き、最優秀作品を紹介します。

小学校5年生の部 最優秀賞

人と熊は仲間

川湯小学校 宮崎 翔大さん



ぼくのおじいちゃん
は、猟師です。
害獣を撃ち、さば
いて、毛皮や内臓
(モツ)を売しま
す。

す。主にシカを撃ちますが、年に一回ぐ
らひは熊を撃ちます。ぼくの家の物置に
は、おじいちゃんが仕事で撃ってきたシ
カを入れる箱があり、ぼくの自転車か
のすぐ横にとめてあります。たまたま、自
転車にシカの血や毛がついていたりし
て、「いやだなあ」と思うことがありま
す。

シカや熊は、ぼくににとっては身近で
す。まわりの友達には「熊はこわい」と言
いますが、ぼくは熊のことを「美味そう」と
思います。それに大きく、日本一強く、頭
がよく、時速五十kmの早さで走れること
も知っています。熊はおくびょうで別に
こわくはありません。でも、熊に襲われ
たという話を聞き、皆は「こわい」と言
います。なぜ熊は人を襲ったりするのか。
そこでぼくは「人は熊と友達になれるの
か」という本を読みました。

この本は、人と野生の熊が共に生きて
いくため努力している人達の取り組み
が書かれています。野生の熊が人を襲う
という事件がありますが、その原因は二
つです。一つ目は熊の生きられる森が減
っていること、もう一つは人の不注意で

「ミを残し、熊をおびきよせていること
です。人が熊をおびきよせ、熊が人を襲
い、熊が殺されます。それをなくし、人と
熊は友達になることができるのでしょ
うか。

この本で印象に残ったのは、人の住ん
でいる所に出てきた熊を鉄のおりに入
れるところ。その後熊に、熊の嫌が
るスプレーをかけて、熊を山に返しま
す。このように、殺さずに熊に教える取
り組みが、心に残りました。

ぼくはもう一冊、『しれとこのきよう
だいヒグマ・ヌブとカナのおはなし』を
読みました。観光客が捨てたお菓子の味
を覚えたヌブが、最後には銃で撃たれて
しまつので、熊がかわいそうだと思いま
した。この本を読み、世界自然遺産に登
録されている知床でも、熊が結構殺され
ているのだと初めて知りました。

道徳の時間に、熊は森を育てているこ
とを教わりました。熊の排泄物には木の
種がそのまま入っていて、それがまた実
り、熊が食べ、また育てるをくり返して
います。熊は秋に大量の鮭を食べ、その
食べ残しを森に運んで木の成長をうな
がすこともしています。つまり、森がな
くならなければ、熊は自分たちで、人と
関わらずに生きていけたのです。その森
をうばった人間は、木を植えて、熊と一
緒に森を育てなければいけません。

熊は人と友達になれるのか？ぼくは
「なれない」と思います。友達というのは
「仲良し」ということです。おじいちゃん
と熊との関係を見て、やはり、仲良し

小学校6年生の部 最優秀賞

弱さを強さに変えて

弟子屈小学校 鈴木 哲平さん



ぼくの一歩弱
い所、それは「メン
タル」です。どうやっ
たらこのメンタル
を強くすることが
できるのだろう。その答えを見つけた
と本屋さんで手にとったのが「逆転の発
想法」という本です。

この本の著者の松岡修造さんは世界
を舞台に活躍したテニスプレーヤーで、
今はテレビのニュースキャスターとし
て活躍されています。ぼくも今、ソフト
テニスをやっている。自分でプラス
になる何かを見つけたらいいのではない
かと思いついて読んでみました。

読んでいくと、この本には、弱さを強
さに変える前向きな言葉がたくさんつ
まっています。

その中でも印象に残ったのは、緊張は
本気の証であり、貴重で大切なものであ
るという言葉です。勝ちたい、いいパフ
ォーマンスをしたいと思うからこそ緊張
するという事です。ぼくは、今までい
つもどうしてこんなに緊張するのかを
きちんと考えたこともなく、心臓はバク
バクして手はプルプル震え、大会を何度
重ねても試合に慣れることはありません
でした。松岡さんはその緊張を軽くす
るか重くするかは、自分しだいで言っ
ていきます。ただ緊張をくり返してても

ダメなんだと思いました。緊張を自分の
力に変えることを自分で見つけなけれ
ば何の解決にもならないんだと気づか
されました。

そしてこの本で心に残ったのは、でき
るかどうかわからなくても「できる」と
信じて挑戦するという言葉です。ぼく
は、いつもできるものだけに力を入れ
て、できないと思ったものはあきらめが
ちでした。

一歩を踏み出すには「根拠のない自
信」が必要で、ただその自信は自分が何
の努力もしていないのに、ただ「できる」
という自信をもつだけではダメだとい
うことです。ぼくは、自分に自信がな
く、できるための一歩を踏み出す気持ち
足りなかったのかもしれない。自信を
持つためには努力とできるという気持
ちが大切なんだと思いました。

ぼくは、小学校生活最後になるテニス
の大会で緊張を軽くするために言葉を
声に出し気合を入れて、優勝するとい
う強い気持ちをもってのぞみました。する
と緊張もほぐれて、ペアになってくれた
友達の力にも助けられ、優勝することが
できました。すこくうれしかったです。
ぼくにあってこの本は大切な宝物とな
りました。

この本を読んだことがない人は読め
ば、弱い自分から強い自分に変われると
思います。自分の経験と比べながら読ん
でみると、いいかもしれません。この本
をもっとたくさんの人に読んでほしい
です。これからも自分の弱さを強さに変

にはなれないと思います。でも、仲良し
ではなく「仲間」にならなれると思いま
す。仲間とは、同じ北海道に、偶然同じ時
代に生まれた生き物どうしということ
です。ぼくたち人間は、熊が育てている
森の恵みをもらって生きています。同じ
「仲間」として、熊を大切にしていこうと
思います。

書名

『人はクマと友だちになれるのか』

太田 京子 著

『しれとこのきようだいヒグマ・ヌブと
カナのおはなし』

あかし のぶこ 作絵

(寸評)

猟師をされているご家族がいて、動物たち
をととても身近に感じる経験があるからこそ
書くことのできる文章だと思いました。自分
の疑問や、周りとは違う考えを、本を読むこ
とで解決しようとし、しっかりとまとめること
ができています。熊と「仲良し」にはなれない
けれど、「仲間」にならなれるという宮崎さん
の最後の考えにもとても共感できる感想文
でした。これからも自分の考えを大切にしな
がら、素敵な本と出会っていきましょう。



えられるように頑張っていきたいです。

書名

『修造流逆転の発想法』

松岡 修造 著

(寸評)

著者である松岡修造さんの言葉から、いろ
いろなことを感じ、考えを深めることができ
たようです。緊張を自分の力に変えるこ
とを自分で見つける「自信を持つためには、
努力とできるという気持ちが大切」というこ
とを胸に刻み、出場した大会で見事優勝した
ことは、何ものにも代えがたい、すばらしい
経験だったでしょう。読書と自分の経験を上
手にまとめた、説得力のあるすばらしい読書
感想文でした。



そのほかの最優秀作品についても、来月
以降順次紹介していきます。

※児童の学年は、コンクールが行われた令和
3年度当時のものです。